

カスミフグの北限記録 (フグ目フグ科)

伊佐正樹・石川晃寛・加藤正洋・町田吉彦

Northernmost record of a puffer *Arothron immaculatus*
(Tetraodontiformes: Tetraodontidae)

ISA Masaki, ISHIKAWA Akihiro, KATO Masahiro and MACHIDA Yoshihiko

Abstract A puffer *Arothron immaculatus* (Schneider, 1801) is recorded for the first time from Kochi Prefecture, southern Japan on the basis of a 24.5mm standard length specimen. This specimen was collected from a seagrass bed of *Zostera japonica* on depths shallower than 1 m in the Kakise River (33°00'34"N, 133°00'25"E) in Kuroshio Town. In the waters around Japan this species has been known only from the Ryukyu Islands, the southernmost district of Japan. This specimen representing the northernmost record of *A. immaculatus* is described and figured.

Key words: *Arothron immaculatus*, Tetraodontidae, northernmost record, Kochi Prefecture, southern Japan.

フグ科のカスミフグ *Arothron immaculatus* (Schneider, 1801) はモヨウフグ属の種である (松浦, 2004)。本種はスジモヨウフグ *Arthron manilensis* (Procé, 1822) と混同されていたが, Randall (1985) は両者がそれぞれ独立した種であることを示し, カスミフグが沖縄からインド洋を経てアフリカ東岸に分布することを示した。本邦におけるカスミフグの分布域は琉球列島以南とされている (松浦, 2004)。

著者らが実施している高知県内河川の感潮域の魚類調査において, フグ科の1標本が高知県西部に位置する土佐湾流入河川である黒潮町の蛸瀬川のコアマモ (*Zostera japonica*) 場で採集された。採集時の水深は1 m以下で, 河口からおよそ500 m上流の地点 (北緯33°00'34", 東経133°00'25") である。その後, 本標本を詳細に検討した結果,

本種はカスミフグと判明した。蛸瀬川は本種の日本における既知の産地よりはるか北方に位置し, 本種の北限の産地となることから, 以下に報告する。

標本は人力による小型曳き網 (袖網4.5 m, 袋網1.8 m, 目合0.5 mm) により得られた。標本は10% フォルマリンで固定した後, 75% エチルアルコールで保存した。標本の計数ならびに計測方法は Nakabo (2002) に従った。標本は高知大学理学部海洋生物学研究室 (BSKU) に保管されている。

Arothron immaculatus (Schneider, 1801)

カスミフグ

(Fig. 1, Table 1)

調査標本 (1 個体): BSKU 87947, 標準体長 24.5 mm, 高知県黒潮町蛸瀬川コアマモ場, 小型曳



Fig. 1. *Arothron immaculatus*, BSKU 87947, from Kakise River.

Table 1. Measurements and counts of *Arothron immaculatus* from Kakise River

Catalog number	BSKU 87947
Measurements	
Total length (mm)	32.1
Standard length (mm)	24.5
In % of standard length	
Body depth	42.4
Body width	39.2
Head length	42.4
Snout length	20.0
Predorsal length	78.4
Preanal length	84.9
In % of head length	
Dorsal fin base	21.2
Anal fin base	21.2
Gill opening length	25.0
Dorsal fin height	34.6
Anal fin height	35.6
Pectoral fin length	35.6
Caudal fin length	78.8
Caudal peduncle length	41.3
Caudal peduncle depth	39.4
Counts	
Dorsal rays	10
Anal rays	10
Pectoral rays	17
Caudal rays	11

き網，2006年7月14日。

記載：計数値ならびに計測値を Table 1 に示す。体は丸い。尾柄は側扁する。口の周辺と鰓孔の周囲，尾柄部を除いて，頭と体は小棘で覆われる。鼻部に基部で分かれた1対の皮弁を備えるが，鼻孔を欠く。両眼間隔は広い。背鰭と臀鰭は丸く，棘がない。背鰭の始部は臀鰭の始部より前方に位置する。胸鰭の最上の2本の鰭条は不分枝。尾鰭は丸い。

生時の体色：頭と体は緑がかった褐色で，腹面は白い。頭と体に斑紋や線状または帯状の模様がない。背鰭と臀鰭は黄色を帯びる。胸鰭は淡い青色を帯びた黄色。尾鰭は黄色で，縁辺部は暗褐色。

備考：本種は，線状の模様や斑紋がないことで近似種と識別される（Matsuura and Peristiwady, 2000）。本種は標準体長30cmに達するとされており（Yamada, 2002），本標本は明らかに幼魚である。本標本の生時の色彩は，Matsuura（2005）が示したタイ南岸産の標準体長43mmの標本の記載とよく一致する。

カスミフグの学名と和名の関係には混乱がみられた（松浦，1984）。Kamohara and Yamakawa（1967）は，沖縄で得られたフグ科の1標本を *Arothron immaculatus* とし，スジモヨウフグを新称として与えた。しかしながら，Kamohara and Yamakawa（1967：fig. 8）のスジモヨウフグは明らかに多数の縦帯を有し，後にRandall（1985）が *Arothron manilensis* であることを指摘した。益田ほか（1975）はスジモヨウフグを図示し，*Tetraodon immaculatus* として簡単な記載与えたが，その個体には明瞭な縦帯が認められることから *A. manilensis* と判断される。久新ほか（1982）は南シナ海産の2個体のスジモヨウフグを *A. immaculatus* として図示し，標本には縦帯がないと記述したが，この種は明らかに *A. immaculatus* である（Randall, 1985）。これらの混乱は，松浦（1984）が *A. immaculatus* に新称としてカスミフグを与え，*A. manilensis* をスジモヨウフグと明示したことで解消された。

Randall（1985）は，本種が藻場に生息することを報告し，また，マングローブ地帯と水深17m以浅の粘土質の沿岸で本種の標本を得た。本標本は感潮域のコアマモ場から得られたが，幼魚であることと，国内における既知の産地が琉球列島であることから判断して，無効分散である可能性がきわめて高い。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり，文献参照でお世話いただいた本研究室の遠藤広光助教授に感謝します。

引用文献

- Kamohara, T. and T. Yamakawa. 1967. On some fishes from the waters of Okinawa and Yaeyama. REPORTS OF THE USA MARINE BIOLOGICAL STATION, 14(1): 1-16.
- 久新健一郎・尼岡邦夫・仲谷一宏・伊田 斉・谷野保夫・千田哲資. 1982. 南シナ海の魚類. 海洋水産資源開発センター, 東京, 306pp.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京, 378pp.
- 松浦啓一. 1984. フグ科.(益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫, 編) pp. 348-351. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 松浦啓一. 2004. フグ科.(岡村 収・尼岡邦夫, 編・監修: 日本の海水魚, 第3版) pp. 706-716. 山と溪谷社, 東京.
- Matsuura, K. 2005. Tetraodontidae. *In* (Matsuura, K. and Kimura, S., eds.) Fishes of Libong Island, west coast of southern Thailand. pp. 74-75. Ocean Research Institute, University of Tokyo, Tokyo.
- Matsuura, K. and T. Peristiwady. 2000. Tetraodontidae. *In* (Matsuura, K., Sumadhiharga, O. K. and Tsukamoto, K., eds.) Field guide to Lombok Island: Identification guide to marine organisms in seagrass beds of Lombok Island, Indonesia. pp. 323-330. Ocean Research Institute, University of Tokyo, Tokyo.
- Nakabo, T. 2002. Introduction to ichthyology. *In* (Nakabo, T., ed.) Fishes of Japan with pictorial keys to the species. pp. xxi-xlii. Tokai University Press, Tokyo.
- Randall, J. E. 1985. On the validity of the tetraodontid fish *Arothron manilensis* (Procé). JAPANESE JOURNAL OF ICHTHYOLOGY, 32: 347-354.
- Yamada, U. 2002. Tetraodontidae. *In* (Nakabo, T., ed.) Fishes of Japan with pictorial keys to the species. pp. 1418-1431, 1632. Tokai University Press, Tokyo.

(原稿受理 2007年3月31日)